

日々の祈り

2024年8月12日(月)~17日(土)

宮崎中部教会



<はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

<使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるままに、祈りの時をもちましょう。

<今週の祈りの課題>

- ・この世の戦争が一日も早く終わり、互いに愛し合い、共に生きるまことの平和が実現するように。
- ・全国連合長老会中高生修養会で子どもたちが信仰告白、洗礼へと導かれるように。
- ・一週間、全国の教会のそれぞれの祈りの課題と、伝道の働きを覚えて祈りましょう。

12日(月)

マタイによる福音書 21 章 6~7 節

弟子たちは行って、イエスが命じられたとおりにし、ろばと子ろばを引いて来て、その上に服をかけると、イエスはそれにお乗りになった。

昨日の主日礼拝の御言葉です。イエスさまは、ダビデの子孫から出た王として、神さまに約束されたメシアとして、神の都エルサレムに入ってこられました。しかし、威風堂々たるお姿で軍馬や戦車に乗って来られるのではなく、貧しく小さな子ろばに乗って、低くへりくだられたお姿で来られました。それはイエスさまが、人々が期待するような敵を蹴散らす強い王ではなく、人々の罪を赦し、生かし、救うためなら、ご自分をどこまで低くし、命さえも犠牲するような、柔和な王であられることを表しているのです。

13日(火)

ゼカリヤ書 9 章 9 節

娘シオンよ、大いに踊れ。娘エルサレムよ、歓呼の声をあげよ。見よ、あなたの王が来る。彼は神に従い、勝利を与えられた者／高ぶることなく、ろばに乗って来る／雌ろばの子であるろばに乗って。

旧約聖書では、すべてに勝利し、すべてを支配するまことの王は、高ぶることなく、ろばに乗って来ると預言されていました。まさに、この預言が、ろばに乗ってエルサレムに入場されたイエスさまにおいて実現したのです。この方は、ここから受難の道を歩まれ、ご自分の十字架の死と復活によって罪と死に打ち勝ち、愛と赦しと命によるご支配を、まことに実現してくださったのです。

14日(水)マタイによる福音書 11章 28~30節

疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。

イエスさまは、柔和で謙遜なお方です。この方は、わたしたちの重荷を負い、罪を負い、苦しみ悩みの人生をすべて負い、わたしたちとどこまでも共に歩んでくださるお方です。この方が、わたしの主、わたしの王でいてくださるならば、わたしたちはこの方の愛と命によって支配され、まことの安らぎの内に、イエスさまにすべてを委ねつつ、守られつつ、導かれつつ、神さまに向かって生きていくことが出来るのです。

15日(木)イザヤ書 62章 11節

見よ、主は地の果てにまで布告される。娘シオンに言え。見よ、あなたの救いが進んで来る。見よ、主のかち得られたものは御もとに従い／主の働きの実りは御前を進む。

マタイの 21:5「シオンの娘に告げよ。『見よ、お前の王がお前のところにおいでになる、…』」は、イザヤ 62:11とゼカリヤ 9:9から引用されています。「見よ、あなたの王が来る」の部分は、イザヤ書では「見よ、あなたの救いが進んで来る」と言われています。イエスさまがわたしたちの王として来てくださり、この方をわたしたちが王として受け入れる。それが、わたしたちが救われるということです。柔和な王、ご自分の命でわたしの罪を贖ってくださる王、死に打ち勝たれる王。この方のご支配の許にこそ、赦しが、命が、救いがあります。

16日(金)イザヤ書 1章 18節

論じ合おうではないか、と主は言われる。たとえ、お前たちの罪が緋のようでも／雪のように白くすることができる。たとえ、紅のようであっても／羊の毛のようになることができる。

明後日の主日礼拝の御言葉です。イエスさまが十字架に架かれる前の晩に弟子たちの足を洗われた「洗足」の出来事の御言葉を聞きます。汚れた足を洗って清くすることは、イエスさまがわたしたちの罪の汚れを洗って清めてくださることを示しています。しかもこの罪の汚れは、イエスさまにしか清めることが出来ません。わたしたちは、どれだけ自分で洗っても自らの汚れでどんどん汚れていきますし、ましてや人の汚れを洗うことなど出来ないのです。ただ神の御子イエスさまだけが、わたしたちを洗って、緋のような罪を雪のように白くすること、紅のような罪を羊の毛のように純白にしてくださることがお出来になります。

17日(土)ヨハネによる福音書 13章 3~5節

イエスは、父がすべてを御自分の手にゆだねられたこと、また、御自分が神のもとから来て、神のもとに帰ろうとしていることを悟り、食事の席から立ち上がって上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。それから、たらいに水をくんで弟子たちの足を洗い、腰にまとった手ぬぐいでふき始められた。

明日の主日礼拝の御言葉です。イエスさまは、これからご自分が十字架で成し遂げられようとしていること、つまり、ご自分の命をお捨てになることで、すべての者を罪から清め、救い出してくださることを、弟子たちの足を洗うことでお示しになりました。イエスさまが屈みこみ、低くなり、わたしたちの汚れを、ご自分の手を汚して洗ってくださることによってしか、わたしたちは罪の汚れから清くしていただくことは出来ないのです。

聖句:日本聖書協会『聖書 新共同訳』